

中一国語

情報社会について

集め方・読み方・引用の仕方

講師：羽場雅希

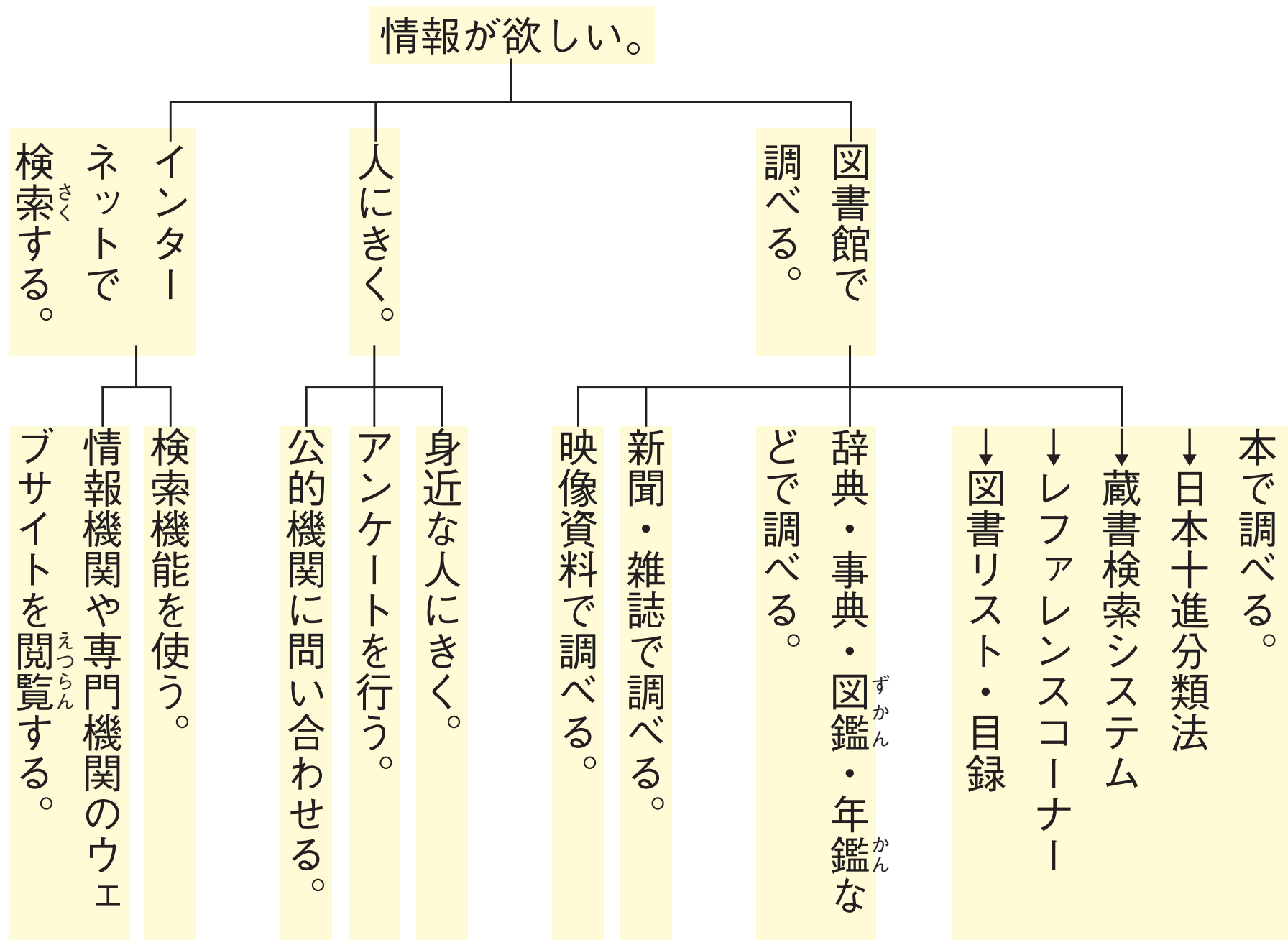
◆今日の授業で学ぶこと

- ・学校図書館を利用して、「言葉」について調べることになった
- ・グラフの種類
- ・グラフを読むときの留意点
- ・引用元（出典）、引用の例（レポート）
- ・練習問題

学校図書館を利用して、「言葉」について調べることになった。

① 調べる内容を絞り込む

まずは、何について、どんなことを調べるかを明確にしよう。何を目ざしているかが曖昧だと、情報を集めにくい。調べたいことを「問い」の形にすると、調べる目的や内容が明確になる。

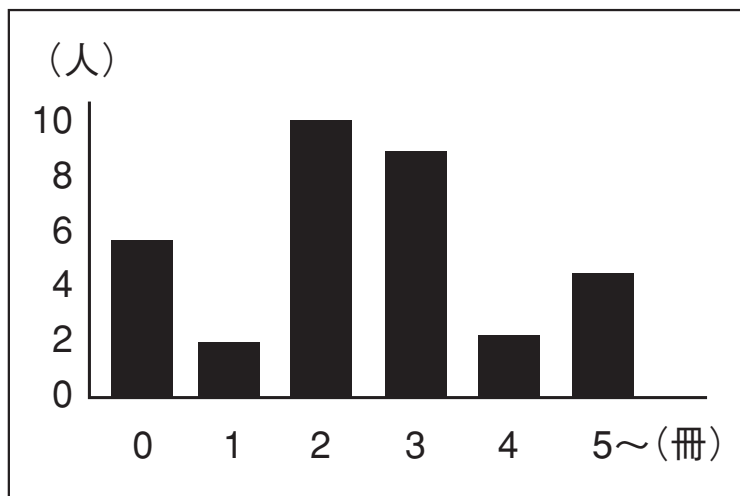


◆ グラフの種類

グラフの種類や特徴と、ちよう情報を読み取る方法を理解しよう。

● 棒グラフ

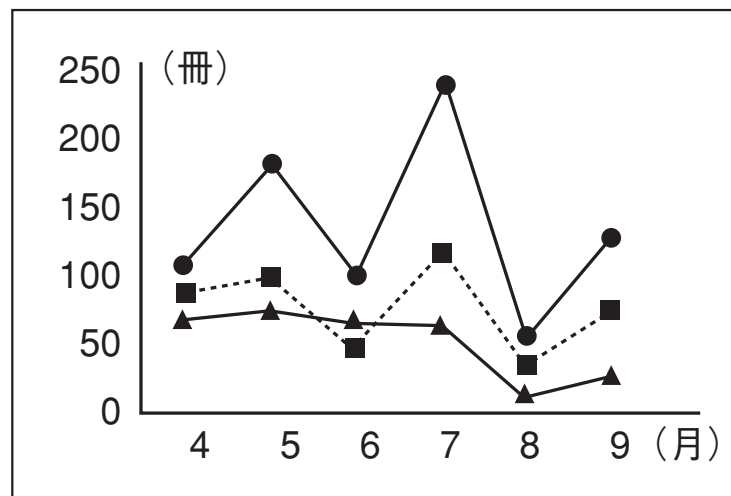
- ・ 棒の高さによって、数量を示す。
- ・ 数量の大小を比較しやすい。



7月の読書冊数（1年1組30人）

● 折れ線グラフ

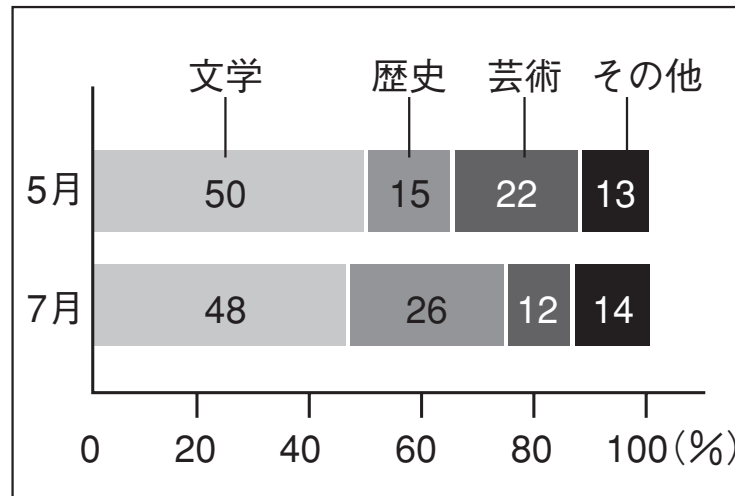
- ・ 時間の推移に応じた数量の変化を示す。
- ・ 数量の変化を捉えやすい。



学校図書館の月別貸し出し冊数

●帯グラフ

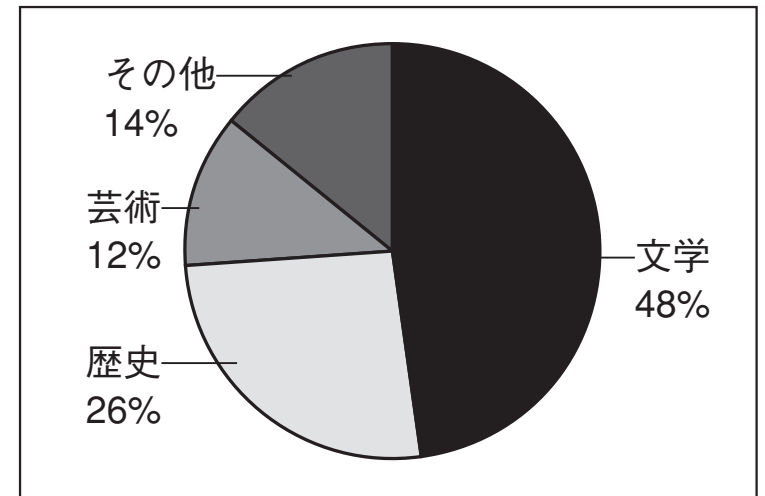
- ・帯全体に対して、各項目の占める割合を示す。
- ・全体の割合を比較しやすい。



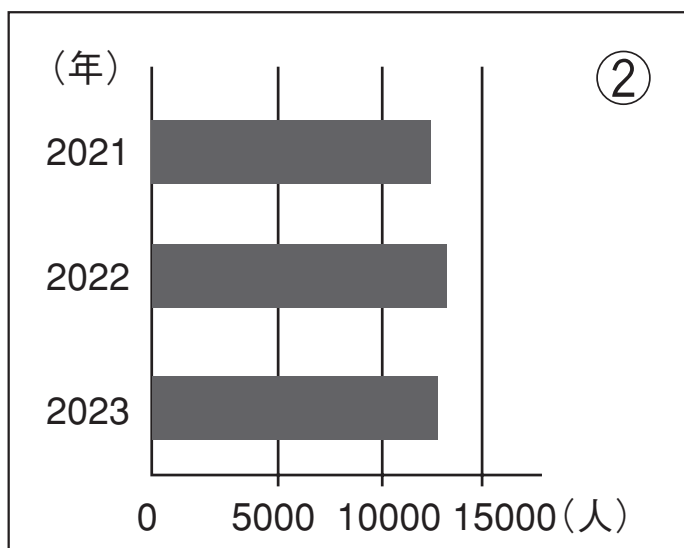
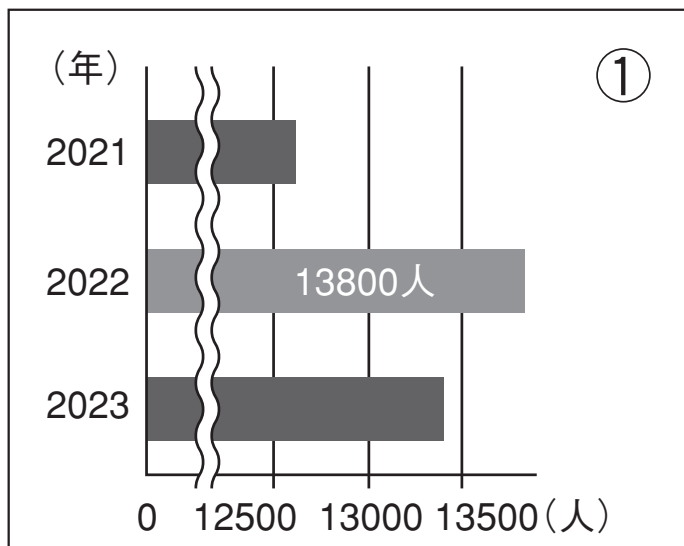
分野別の貸し出し冊数の割合の比較 (5月、7月)

●円グラフ

- ・円全体に対して、各項目の占める割合を示す。
- ・全体の割合を捉えやすい。



分野別の貸し出し冊数の割合 (7月)



〇〇市の人口
(①・②とも同じデータ)

◆ グラフを読むときの留意点

グラフを読むときは、次のようなことに気をつけよう。

● 統計の取り方

- 調査の時期、対象、対象全体の数。

● 軸や目盛りしきりの取り方

- 単位が一定か。単位が大きすぎないか。

● 数値の見せ方

- 大きな文字や派手な色で特定の数値だけを目立たせていないか。



統計の出典

- ・ 信^ら頼^いのできる機関や組織から示されたものか。

(資料 A) 〈国語ニュース〉

「さわり」「ぞっとしない」半数以上が本来とは違う使い方

2017年9月〇日：配信

どちらの意味だと思うか	
平成28年度「国語に関する世論調査」から○は本来の使い方。 数字は回答率(%)	
「さわり」	
○話などの要点のこと	36.1
話などの最初の部分のこと	53.5
「ぞっとしない」	
○おもしろくない	22.8
おそろしくない	56.1
「知恵熱」	
○乳幼児期に突然(とつぜん)起こることのある発熱	45.6
深く考えたり頭を使ったりした後の発熱	40.2

文化庁が行った「国語に関する世論調査」で、半数以上の人々が「さわり」「ぞっとしない」という言葉を本来とは別の意味で使っていることがわかりました。

特に「ぞっとしない」は、本来の意味とは異なる「おそろしくない」を選んだ人が、本来の意味で使っている人の約2.5倍に上がりました。また、調査対象となった全ての世代で、本来の意味で使っている人の割合を上回っています。

本来の意味とは異なる使い方が、これほど広く浸透している現状を考えると、**どちらの意味で使っても、言いたいことが伝わらないおそれがありそうです。**

(資料 B : 奥付)

変化する日本語 青空選書 285

2018年4月1日：第1刷発行

著者：山川 夏子

発行者：海野 大

発行所：青空出版

〒140-XXXX 東京都品川区□

□ 8-3-1

印刷：さくら印刷

製本：ひかり製本所

(資料 B) 言葉は生き物

「とても寒い」という表現に、違和感を覚える人はいるだろうか。現代ではごく一般的に用いられる表現のため、ほとんどの人は何の疑問ももたないだろう。しかし、ほんの百年ほど前までは、「私には、とてもできない」のように、「くない」をとともなう用法が「正しい」とされていた。

このように、時代や世代とともに言葉の意味や用法が変化していく事例は多くある。言葉は変化するものであり、過敏になる必要はない。ただし、定着に至る過渡期においては、もちろん注意が必要である。相手に正確に伝えるためには、相手の「常識」に即して言葉を選ぶことが大切だ。

◆ 引用の例（レポート）

「言葉の変化」とは、どういうことが

5・考察

「変化する日本語」を書いた山川夏子氏は、「言葉は変化するもの」と捉えたうえで、「ただし、定着に至る過渡期においては、（中略）注意が必要」と述べている。「国語に関する世論調査」でよく話題になる、言葉の意味や使い方の変化も、まさにこの例に当たるだろう。

「さわり」「ぞつとしない」など、本来とは異なる使い方が定着している場合、「どちらの意味で使っても、言いたいことが伝わらないおそれ」（「国語ニュース」）がある。本来の使い方をしっかりと理解しておくことはもちろんだが、使う場合や相手に応じて、誤解を生まないよう、気をつけることが大切だと感じた。

前述の山川氏は、こうも述べている。「相手に正確に伝えるためには、相手の「常識」に即して言葉を選ぶことが大切だ。」

言葉の変化を柔軟に受け入れつつ、その表現が相手にどのよう^{ふだん}に伝わるかを考えて、普段自分の使っている言葉を見直したい。

6. 参考文献^{ぶんけん}

- ・「変化する日本語」 山川夏子 青空出版 2018年刊
- ・「『さわり』『ぞっとしない』 半数以上が本来とは違う使いかた」

国語ニュース 2021年6月30 日閲覧

URL : <https://kokugo-news.co.jp/articles/2017/news082/>

◆ 引用のしかた

●引用文 引用部分はかぎ（「」）でくくるか、前後に行を空けて一、二字下げるかして、自分の文章と区別する。誤字・脱字だっじがないように、正確に抜き出す。

●出典の明記 著作権に留意し、出典（引用元の本や資料の名称めいじしやう）を明確に示す。

●留意点 引用部分は、必要最低限の範囲はんいに絞る。

◆ 出典の示し方

●本・資料 奥付おくの著名、著者名の他、必要に応じて発行所名、発行年、引用部分のページなどを示す。

●新聞 新聞の名称、発行所名、発行日、朝刊・夕刊の別などを示す。

●ウェブサイト ウェブサイトの名称とアドレス、アクセス日を示す。

●留意点 図・表・グラフ、絵や写真を引用するときも、出典を示す。

【第一問】

インターネットで情報を集めるときの検索方法と注意点をまとめました。() に当てはまる言葉を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 情報の検索方法

● 知りたい情報の()を入力して検索すると、その言葉に()のある情報を絞り込むことができる。

● ()が多すぎたら、キーワードを増やして絞り込む。

● 関連する本や資料の()をつけるときにも役立つ。

② 情報の信頼性の確認

● いつ、()が、どんな目的で発信したものかを確認める。

● 複数の情報を()する。

ア、比較 イ、関係 ウ、検索結果
エ、キーワード オ、だれ カ、見当

【第二問】

次の場合は、著作権の侵害しんがいになりますか。
侵害にならないものには○、侵害になるものには×を書きなさい。

- ① なくなつてから九十年たつ著作者の詩の全文を、無許可でインターネットの個人のブログに掲載けいさいした。 ()
- ② レポートを書くときに、図書館の本にのつていた図表を引用したが、著作者の許可を得なかつた。 ()
- ③ 著作者の許可を得ずに、好きなアニメのイラストをまねてかき、欲しいという人に千円で売つた。 ()
- ④ 著作者にイラストを本に掲載する許可を得た後で、本の編集上の都合でイラストの一部を改変した。 ()
- ⑤ 新聞記事の一部を、出典を明記したうえで授業で必要な範囲だけ引用したが、新聞社の許可は得なかつた。 ()